



より広範で重層的なパートナーシップの構築を目指すUNU-IASの活動

丸山 鳴 / 国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) プログラム・アソシエイト

国連大学は、日本に本部を置く唯一の国連機関として、1975年に設立された。国連とその加盟国が関心を寄せる緊急性の高い地球規模課題に対し、共同研究や教育を通じて解決策を提案することを使命としている。現在、国連大学は12カ国に13の研究所とプログラムを有するネットワークに成長し、先進的な研究方法と革新的なアプローチを使って、様々な課題に対し独創的な解決策を生み出そうとしている。

東京を拠点とする国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) は、先進国と途上国の連携や協力の重要性に力点を置き、学際的かつ問題志向の研究、教育、能力育成を手掛けており、パートナーシップは研究所のあらゆる活動において重要な基盤となっている。学術機関であると同時に、国連機関の一組織である特徴を活かし、他の国連機関や政策立案者、学会、市民社会との橋渡しの役目を担い、日々さまざまな活動を実施している。

国際的なパートナーシップの促進

例えば、UNU-IASの研究プロジェクトである国際 SATOYAMA イニシアティブでは、活動の一環として「SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ (IPSI)」の事務局を担っている。自然共生社会の実現

に向けて、同分野で活動する団体から構成されるこのプラットフォームには、2017年1月現在、世界各地の政府、NGO、コミュニティ団体、学術研究機関、国際機関等の202団体が集う。IPSIはメンバー間の連携促進、情報発信や普及啓発など多種多様な活動の場を提供することで、専門的知識を共有し、互いに影響を受け、助け合い、効果的な取り組みを実施するための支援をしている。

持続可能な開発のための教育 (ESD) に関する活動では、「持続可能な開発のための教育に関する地域の拠点 (RCE)」と、高等教育機関のネットワークである「アジア太平洋環境大学院ネットワーク (ProSPER. Net)」という2つのイニシアティブを通じて、持続可能な開発を言葉から行動へ具体的に移すためのパートナーシップ構築を目指し、高等教育機関、初等中等教育機関、自治体、NGO、その他地域のESD推進者間の革新的な連携・協力のための場をコーディネートしている。現在までに、世界には154のRCEが存在し、ProSPER.Netには37のメンバーが加盟している。

国内のパートナーシップの促進

その他、UNU-IASは国際的に重要なテーマを日本国内に向けて発信するアウトリーチ活動の一環として、環境省との共同プロジェクト「地球環境パートナーシッププラザ (GEOC)」を国連大学の立場から実施運営している。多様なステークホルダーの参画とパートナーシップの促進を目指し、国内外の情報収集や発信のほか、関係者の交流の機会の提供、市民に向けたシンポジウムや展示の開催を行い、関心を喚起するとともに情報を取りまとめ世界に発信し国際社会に貢献している。

UNU-IASは、今後も、あらゆる課題の解決に向け地域・企業・NGO・市民等の参画を促進し、「持続可能な開発目標 (SDGs)」の達成に向け、国際的に重要な課題と地域の取組を繋げながら、より広範で重層的なパートナーシップを展開してゆく予定だ。

